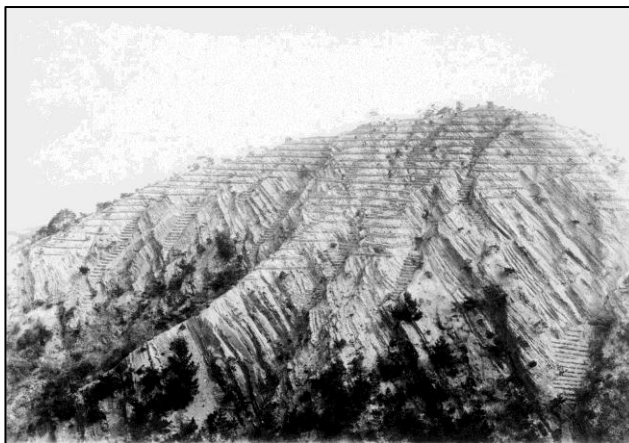


41 泉南地域のはげ山復旧

大阪府（泉南市ほか）



泉南地域では多くの山が裸地化していた
(昭和初期～中期)



積苗工とマツの植栽による緑化
(昭和初期～中期)



植生盤筋工による緑化（昭和35年）



山の木は薪炭材として利用された



現在の泉南地域の山々



○所在場所

大阪府泉南市・岬町・阪南市桑畑ほか

○施設・工法の概要

玉石コンクリート治山ダム工・積苗工等筋工・植栽工ほか

○解説

都市近郊に位置する大阪府内の山々は、都市住民の生活を支える薪炭材として利用するため過剰に伐採され、裸地化したはげ山が多くみられ、大阪府南部の泉南地域（現在の泉南市・阪南市・岬町）にも、かつてハゲ山が多く存在していました。

昭和27年7月11日未明に阪南市の山間部にある鳥取池が決壊し、下流の集落で51名が亡くなるという大災害が発生しました。この災害は、記録的な大雨によるものでしたが、当時、周辺の森林の多くは裸地化し保水力がなく、降った雨は直ちに山腹を流下するといった状況にありました。泉南地域では、治山事業・府営林事業等によるはげ山復旧が昭和の初期から続けられていましたが、本格的な治山事業によるはげ山復旧がこの地域で始まったのは、この鳥取池の大災害の翌年の昭和28年度からです。

現在では治山事業の成果により、豊かな広葉樹主体の森林が都市住民の安全を守っています。